

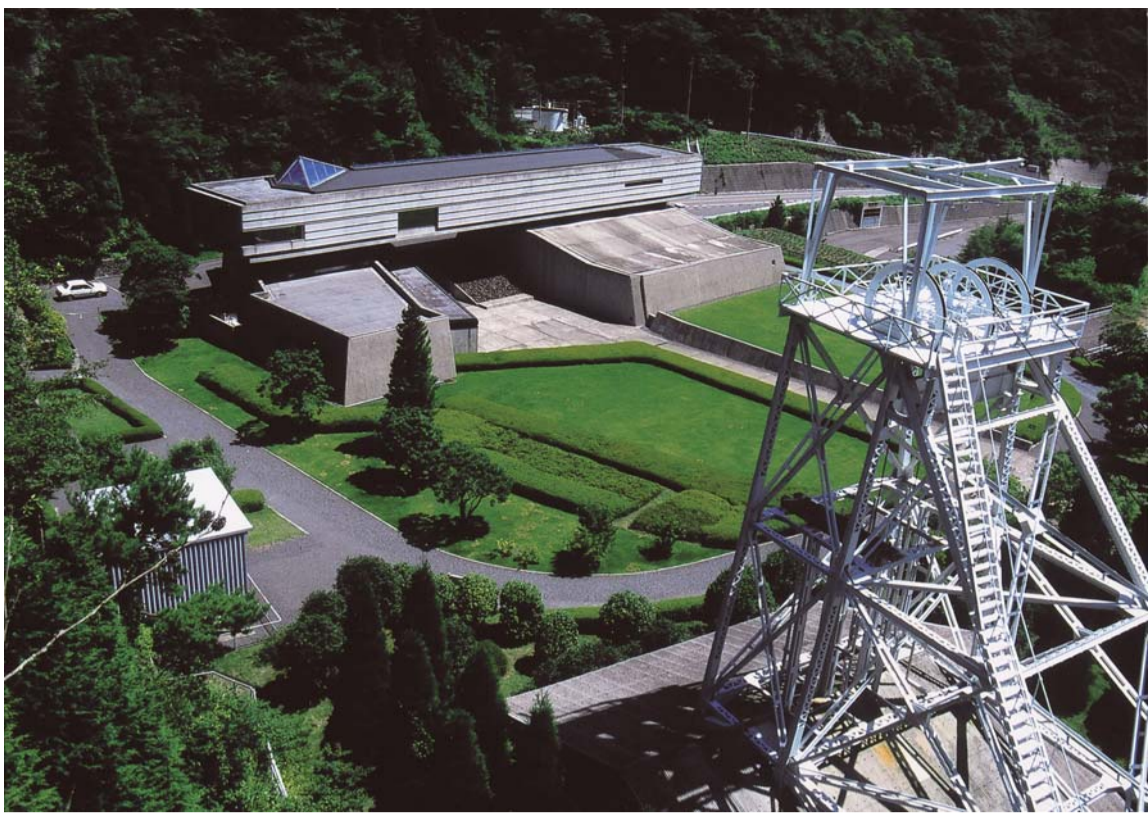
# 近代産業史や地域発展の歴史を物語る 企業博物館「日鉱記念館」

## 煙害克服へ大煙突／100万本の植林で山に緑

企業は利益をあげるだけでなく、社会や環境と調和して事業を発展させるという社会的使命を果たすことが欠かせない。このCSR（コーポレート・ソーシャル・レスポンスビリティ＝企業の社会的責任）を100年も前の時代から実践したのが、新日鉱グループの創業者、久原房之助だ。現在、同グループは、持株会社・新日鉱ホールディングスの下で、ジャパンエナジー（JOMO）と日鉱金属を中核事業会社とするが、その発祥は1905年（明治38年）の日立鉱山（茨城県）開業にさかのぼる。当時、日本各地の銅製錬所周辺で煙害が大きな社会問題となり、日立鉱山も同様の問題で悩まされていた。これに対し、久原房之助は、1914年（大正3年）に当時世界一の高さ155.7mの「大煙突」を建設し、煙害を激減させるとともに、地域住民とともに周囲の山に緑を復活させ、事業発展の礎を築いた。

日鉱記念館は、その創業者精神と足跡、グループの歴史と現況を広く社会に伝えようと、1985年（昭和60年）、日立鉱山跡地に建てられた。今日、同記念館は、日本の近代産業史や地域経済発展の歴史を物語る企業博物館としても知られており、昨年11月に経済産業省の近代化産業遺産にも認定された。

（文中敬称略）

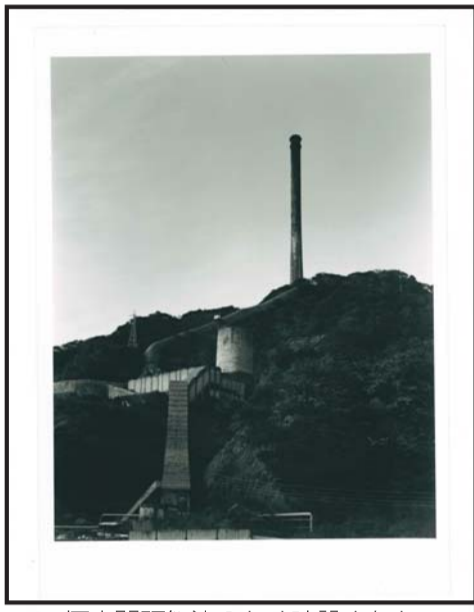


緑豊かな地にある記念館の全景。手前にあるのは堅坑の櫓

### 鉱山と地域社会の共存共栄の歴史伝える



鉱山資料館ではコンプレッサー、削岩機、鉱石標本などを展示



煙害問題解決のため建設された大煙突。工都・日立のシンボルとして市民に親しまれてきた



記念館の敷地内にある「旧久原本部」  
（茨城県文化財・産業史跡第1号）

《日鉱記念館》  
 ▷所在地＝茨城県日立市宮田町3585 ☎0294・21・8411  
 ▷開館時間＝午前9時～午後4時  
 （入館受付は午後3時30分まで）  
 ▷休館日＝月曜日、祝祭日、年末年始など  
 ▷入館料＝無料  
 ▷アクセス JR常磐線日立駅から日立電鉄バス東河内行き。「日鉱記念館前」（駅からの所要時間約30分）。同タクシー約20分。常磐自動車道日立中央ICより約10分  
 ▷駐車場：無料（大型バス3台・普通車30台）  
 ▷ホームページ：http://www.shinnikko-hd.co.jp/corporate/museum/  
 <企画・制作> フジサンケイ ビジネスアイ

日鉱記念館は、今から103年前の1905年（明治38年）12月に久原房之助が赤沢銅山を買収し、日立鉱山として開業した地に建てられている。JR常磐線の日立駅から、記念館に向かう道も左右に豊かな緑が広がるが、記念館の周囲の小山も、目に鮮やかな緑に覆われている。

◆煙害で農作物に被害  
 だが、日立鉱山が開業した当初は、製錬所から排出される煙（亜硫酸ガス）により、周辺のソバ、桑、稲などの田畑も樹木も大きな被害を受け、鉱山と周辺住民との紛争が絶えなかった。

◆この煙害問題を解決しよう  
 日立鉱山は試行錯誤を重ねる。ムカデの神峰煙道（百足煙道）や政府の命令による低く太い煙突（ダラム煙突、阿呆煙突）を建設したが、かえって被害が増大し、経営が危うくなるに至った。

◆世界一高い煙突  
 そこで久原が提唱したのが大煙突の建設だ。久原は「煙害を高くすれば、一途に上昇した煙は高層気流に乗って拡散し、煙害問題は必ず軽減できる」と主張し、「よし不成功に終わっても、わが鉱業界のために」と決意を固めた。

◆「ある町の高い煙突」のモデル  
 日鉱記念館の周囲の緑は、こうした植林のたまものである。現

界のためには悔いなき苦しみ体験となる」という大きな観点から建設を決断したという。

高さ155.7mは当時、世界最高であり、欧米諸国の技術指導によらず、社内の若手気鋭の技術者が設計。巨大な足場を築き、当時はまだ珍しかった鉄筋コンクリートで建設され、その費用は約30万円と巨額にのぼった。大煙突建設により、煙害は激減した。

◆気象観測所や農事試験場も  
 さらに日立鉱山は、大煙突建設後も、半径約10km以内に設置した10カ所ほどの気象観測所で24時間煙の流れを観測し、気象条件によっては溶鉱炉で処理する銅鉱石の量を調節するなど製錬の操業を制限し、煙害をさらに減少させた。

◆並行して、煙を人工的に発生させる煙煙器を使って農作物への影響を研究したり、煙に強い作物の品種改良を行った。さらに大島松や黒松など煙に強い樹木の苗木を育て、1931年ごろまでに地域住民と協力し計1000万本の植林を行った。

◆模擬坑道で社会勉強  
 また、坑内を模擬坑道によって再現しているほか、日立鉱山をはじめとする国内外の鉱山から採掘された各種鉱石などを展示。社会勉強も鉱物、地質の勉強もできるようなっている。

◆知的探求心を刺激  
 3年前の創業100周年に当たり、展示内容を大幅にリニューアルしたこともあって、入館者数は漸増し、昨年は「2万2000人」（木村信浩館長）で過去最高を記録した。

◆大煙突は、その後も工業都市として目覚ましく発展する日立市を象徴するランドマークとして、市民から親しまれてきたが、1993年（平成5年）に倒壊し、修復後約3分の1の高さとなった。短くなったとはいえ、大煙突には、企業と地域住民が共存共栄を目指して煙害問題克服と自然環境回復に長年取り組んだ歴史が今も生き続けているのである。